

令和7年度教育事業 ボランティア養成研修

- 1 楽 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、
野外活動等の指導・支援ができるボランティア
及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和7年5月31日（土）～6月1日（日）1泊2日
- 3 対 象 者 高校生・大学生（短大・専門学校生を含む）・一般
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参 加 者 26名（高校生18名、大学生・専門学生5名、社会人3名）
- 6 指 導 者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター准教授 福満 博隆 氏
鹿屋市中央消防署 救急隊員4名
国立大隅青少年自然の家職員4名



7 日 程

5月31日（土）	6月1日（日）
9:00 受付・開講式	6:00 起床・寝具整理・清掃
10:00 講義「ボランティア活動の意義」	7:30 朝食
11:40 講義「青少年教育施設の現状と運営」	9:00 実習「自然体験活動の安全管理」 (普通救命講習Ⅰ)
12:40 昼食（弁当）	12:00 昼食（弁当）
13:30 講義「青少年教育施設における体験活動」	13:00 講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:30 実習「ボランティア活動の技術」（野外調理）	15:30 閉講式・解散
20:00 入浴	
21:00 就寝	

8 事業運営上の配慮

- 実習（野外調理）の時間を多めに確保し、スケジュールに余裕を持たせた。

9 参加者の感想

- ボランティアについてたくさん学べていい経験になり、楽しかった。
- 初めてあったみんなと協力して、何かを達成出来るのはとても気持ちよかった。
- 胸骨圧迫など、これから生きていく上で何かあったときに活用できるので、とてもいい体験だと思った。
- 講義も勉強になる事ばかりでとてもおもしろかったし、野外炊飯がとても楽しかった。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 事業終了後、法人ボランティアとして15名の登録があった。
- 学校、年齢、性別関係なく、交流を深めて活動に取り組んでいる姿が見られた。
- 法人ボランティア2名が参加し、参加者と積極的に交流や意見交換をしている様子が見られた。
- 座学が続き、参加者の集中力の低下がみられたので、合間に実習や体験活動等を入れメリハリをつけて学べるようにする必要がある。

